

誰にも告げず

室田陽子

室田陽子

にも告げず

短歌研究社

形成叢書

著者略歴

昭和2年 埼玉県生まれ
昭和46年 大西民子氏に師事
大宮短歌会会員
昭和55年 歌集『髪は針なす』
埼玉県歌人会新人賞受賞
昭和60年 形成同人
平成5年 歌集『誰にも告げず』

省 検
略 印

歌集 誰にも告げず

平成五年五月十八日 印刷発行◎

形成叢書

定価三〇〇〇円

著者 室田陽子

郵便番号三三〇
埼玉県大宮市浅間町二二三九

発行者 押田晶子

発行所 短歌研究社

郵便番号一二二
東京都文京区音羽一十七・一八・一九
電話〇三(三九四四)四八三三・四八三三
振替(東京)九一二四三七五番

印刷者 豊国印刷
製本者 大沢藤兵衛

落丁本・乱丁本はお取替えいたします。

ISBN4-8851-052-X C0092 P3000E
Printed in Japan

誰にも告げず・目次

第一章 魂^{たま}あらば

音程きめて 10

魂あらば 15

視線さだまる 19

ヒマラヤの芥子 24

小さき異物 29

しなやかな傾斜 34

竹さやぐ里 40

春の水面 45

第二章 かつらむき

脛ぬらしつつ 50

ゑのころ草 54

一瞬の修羅 57

辻音楽師 62

かつらむき 67

線描きの馬 72

かな文字 76

老母のパノラマ 81

第三章 投網^{とあみ}うつ漁夫

一抱への百合 88

風紋のなだり 92

火縄銃 95

朱雀大路 100

冬の疎林 105

巨き帆船 109

絵日傘 114

投網うつ漁夫 118

レンズ雲 123
 氷の華 128
 藤をはりぬ 134
 第四章 細身の傘
 千条の根 140
 風のぬけみち 145
 一撃の皿 150
 春泥の靴 155
 木靴鳴らして 159
 屋上レッスン 163
 はんなりと 169
 細身の傘 174
 手榴の刑 179

第五章 絹の瀑布

視野慰むる 186

水引草 190

指ゑくば 192

誰にも告げず 197

鰭のごとくに 202

ペレーの形 207

絹の瀑布 214

塩地藏 218

庇髪 222

軒の杉玉 228

あとがき 233

装幀 中島かほる

装画 茨木貴乃

誰にも告げず

第一章

魂^{たま}あらば

音程きめて

春の雪素手に分けつつ摘みし菜の凍ててはりはり紙の音たつ

啼き出づる音程きめて元朝をローラーカナリや金の鈴ふる

青年期に移らむ子らの青くさき仕草見てゐるドラマの中に

飛沫上げ方形を切る氷屋の寒の朝の音いさぎよし

遊園地なればやすやす開くパラシュートと見し視野閉ざす電車入りきて

毀たれし家の引きゐし影のゆくへ夕べの闇に重なりて濃き

送電線に鳴る木枯らしは飄々と叫びてめぐる万の魂

真一文字の沈黙と見し寒蛭真夜ひつそりと軟体さらす

癌病棟へつづく坂道たんぽぽの黄もちりばめてたけなはの春

若草の萌ゆる野面のひとところ雲の落としし影移る見ゆ

河原辺にテニスなす子らふちどりて目醒めよとばかり菜の花ざかり

日照^そ雨^ばすぎし後の大虹都心ゆく電車の窓より見つつかはなし

ビル風に吹きしまかれてみごもれる吾娘が手をふる脆しわかれは

遠き世の瀬音さやかに颯たしめて岸のさわらび萌えそめにけり